戦争と平和について、それぞれの視点で真っ正面から取り組み、鋭い指摘を行った3人の中学生のスピーチは、人々に深い感銘を与え、大きな拍手で讃えられていた。

今年は「集い」に先立ち、8月9日、百合ヶ丘市民センターで、映画「明日への遺言」が上映された。B29搭乗の米兵捕虜処刑にも係わる東海軍司令官岡田資中将のB級戦犯裁判が主題であるが、米軍による無差別爆撃を戦争犯罪としして弾劾するなど、戦争犯罪裁判に正面から取り組んだ見事な映画であった。主演藤田まこと最後の出演映画でもある。

語り継ぐ平和と戦争の悲惨

「戦争はいや！平和のつどい」

名張市役所で8月17日、市民有志ら実行委員会約30人が主催する「戦争はいや！平和のつどい」が開かれた。2013年から始めて，今回13年目になる。今年のテーマは「語りつごう平和を・くりかえしてはいけない悲惨な戦争！」

伊賀市の中村美智代さん（86）は「防空頭巾を被って学校に通い、空襲警報が鳴ると防空壕に逃げ込む毎日だった。1945年6月17日のB29の大空襲の時は淀川に逃げた。街の方を見ると、一面真っ赤な炎で燃えていた。3日間ぐらい空が暗く太陽(ひ)が出なかった。降った雨は茶色だった。戦争も逃げ惑うのも嫌です。現代に生きる有難さをひしひしと感じます」。戦時中全国の動物園では動物が殺された。同市の前澤吹観子さん（87）は、唯一生き残った名古屋東山動物園のアジア象を見るために国鉄が運行した「象列車」の思い出を語った。「大陸に出征し抑留された父親は、戦争の話しは一切しなかった。映画もテレビも見なかった。それだけ辛かったのだと思う」と父親の胸中を察していた。

☆名張市立5中学校には2人ずつ、戦争や平和について学び活動する「ピースメッセンジャー」が10人いるが、そのうち8人がこの「つどい」に参加した。彼らは5月に耕野一仁さんから「名張にもあった戦争」、8月には平和記念館の太田絹枝さんから「被爆体験」を聞いた。その他、日頃の平和学習や広島修学旅行での学習を併せて12月に「平和メッセージ」を発表の予定。この日8人は「学んだことを自分の中で閉じるのでは無く、多くの人に伝えていきたい」「二度と悲劇を繰り返さないために、つぎの世代に伝えることが私たちの使命」など自分たちの使命を述べた。桔梗が丘中学2年生の東尾咲輝さん（蔵持町芝出）は、「平和や戦争についてもっと学びたい。身近なところから平和を広めていきたい。平和と言うものは、訪れるのを待っているだけではなかなか近づいてはくれない。皆で平和を築こうとする考えが大切だと思う」と深めてきた考えをしっかりと述べた。

この「つどい」では正面スクリーンに戦争（原爆も含む）の映像が流れ、コーラスグループ「ミックスピース」の人々が朗読と美しいコーラスで会を進行した。会場には、原爆写真や大陸での日本軍、戦時中の備品や遺品、広島市立基町高校の生徒が被爆者から聞き描きした絵画など多くの展示が人々（来場者約250人）の目を引きつけていた。映像とミックスピースの進行が素晴らしいだけに、戦争の悲惨さが余計に際立った会場となっていた。